



2013. 1. 20
No.49



結
yui

発行「憲法9条の会つくば」

〒305-0005

つくば市天久保 1-10-12 1-401

電話 090-3811-3753

Fax 029-856-2286



<http://peace.arrow.jp/tsukuba/>

迎春

2013年「憲法9条」の闘い 試練を乗り越えて

明けまして、おめでとうございます
今年も一緒に、楽しく、
粘り強く頑張ってください！

7周年記念のつどい開催！

昨年12月15日、年の瀬が迫り、しかも翌日が衆議院選挙日、その上雨模様という3重苦の中で開かれた憲法9条の会つくば「7周年記念のつどい」でしたが、皆さまには多数ご参加下さいまして、誠にありがとうございました。心からお礼を申し上げます。

さて、先の衆議院選挙結果は、おおよその予測をはるかに超える衝撃的なものとなりました。自民党が単独で過半数を超える294議席を獲得、連立を組む公明党と合わせると325議席、衆議院議員総数(480議席)の3分の2である320議席を超えました。その上、日本維新の会は54(公示前11)議席、みんなの党は18(公示前8)議席を数え、これら憲法を変えることを表明している勢力は、366議席(公明党を除く)となり、議員全体の76%に達しています。憲法改正のためには、衆参両議院の3分の2以上の議員の賛成が必要ですが、今回の選挙で、少なくとも衆議院ではその3分の2以上の議員を確保、憲法改正の発議が可能な状況を作り出しています。



↑片平博さんの和太鼓演奏



「一齋藤さだむさん
本の販売も
本日のあかし写真展



自民党への積極的支持は見られない

こうした自民党の大勝は、自民党自身が認めているように、同党への国民の積極的支持を示すものではありません。実際、自民党の得票数は前回大敗した2009年に比べても、小選挙区で166万票、比例区で219万票も減少しています。こうした事態の背景には、民主党に対する失望と政治不信、戦後最低の投票率と多数の白票、小選挙区制という民意を反映しない選挙制度の持つ歪み、マスコミによる偏向キャンペーン、などがあります。

国民の願いとこれからの闘い

国民の願いは、憲法9条を守り集団的自衛権を否定するとともに、普天間基地の辺野古への移転やオスプレイ配置反対など平和の維持、原発即時廃止、消費税増税やTPP参加反対、新自由主義構造改革路線への復帰反対、そして被災者の生活再建などです。

今年7月に予定される参議院選挙は、日本の方向性を左右する天王山になると思われます。いま、最大の危機を迎えている日本国憲法を守ることができるよう、私たちすべての同じ志を持つものが手をつなぎ、決してあきらめず、したたかに、しなやかに、力の限り平和を壊す勢力との闘いに立ち向かい、子どもたちに明るい未来を残していきたいと思えます。(代表・長田満江)



→9条カフェのお菓子・飲み物など
19条パンの販売



橋本実さんのステージ



渡辺治さん
記念講演

憲法を力に、未来をひらく

—選挙後、日本の政治は、くらしは、憲法はどうなるのか

90分間、一気の熱弁でした。翌日に衆議院選挙をひかえ、憲法に大きな変化があるかもしれない状況の中、会場全体が熱心に聴きました。グラフなども配られて3つのテーマに分けてお話しされました。



1 今、なぜ憲法改悪が浮上しているのか

今回の総選挙では、自民・民主・みんなの党・維新の会が憲法「改正」を掲げている。これまで日本の保守政党は選挙のときに憲法を争点にしたことはない。選挙で否定されてしまうとそれでアウトだからだ。しかし、今回の総選挙では、憲法「改正」を正面から争点にしている。それは、なぜかを考えてみたい。

日本の保守政党は、日本国憲法が1947年にできてから65年の間、ずっと憲法を変えなかったが出来なかった。改憲が浮上してきたのは、22年前のソ連の崩壊のあとだ。なぜなら、ソ連崩壊によりアメリカやそれに追随する自由主義陣営の企業が活動する世界が一気に広がったからだ。冷戦の時代は企業の活動の場は、アメリカ・日本・東南アジア・ヨーロッパに限られていたがソ連崩壊によって旧ソ連・東欧圏、中国、インド、中東などを含めると40~50億の人口の世界が新たに市場になった。そこで、新市場で企業活動をするための安全を守る役割を、まずアメリカが世界の警察官として担った。しかし、「アメリカの青年は血を流している中で、世界第2の経済大国である日本は何もしないで企業に大もうけをさせている」という圧力がアメリカから出てきた。「憲法を変えてアメリカと一緒に自衛隊を海外に出せ」という圧力が日本の財界からも強まった。また、日本企業の海外での生産において、他の海外企業との競争に負けられないようにするため、「構造改革」と称して大企業を規制する色々な国内の制度を取っ払え、企業の税金を下げろ、労働者の賃金を下げろ、首切りをさせろ、派遣労働を拡大させろ、といった要求が財界から強まった。(軍事大国化と構造改革が保守政治の二つの要求)

小泉政権のイラクへの自衛隊派遣は、自衛隊は軍隊ではないと解釈して強行された。そのあと、解釈ではなく明文で憲法を変えようとする動きが2004年から強まった。これに反対する市民運動が起き、9条の会が全国に広がり、その数が7,000を超えた2008年には改憲反対の割合が43%に増え、賛成意見を逆転した。このことが政治に強いインパクトを与え、世論を変え、民主党の姿勢をも変えた。ところが次にみるように、民主党政権が国民の期待を裏切って変質したことから、自民党などは、改憲のチャンスとみて憲法を争点にしている。

2 総選挙後の政治がねらうもの

—新自由主義大攻勢、軍国主義化、そして改憲が

保守政治を安定させ軍事大国化と構造改革を推進するには2大政党による政治が最も適している。2010年

には自民が駄目なら民主にやらせて国民の不満を吸収しながら推進するという仕組みができかけていた。ところが、自民党の新自由主義政治があまりにも多くの問題を生み国民の強い反発を受けて交代した民主党政権は、当初鳩山政権がアメリカや財界の期待に反する方向に向った。たとえば社会保障切捨てに反する子供手当や高校授業料無償化・農家戸別所得補償政策案や日米軍事同盟見直し(地位協定見直し、普天間の海外移転論)など。これにあわてたアメリカと財界の圧力により鳩山首相は「追放」され、菅・野田政権が生まれ、福祉のリストラ・構造改革と軍事大国路線に再び戻った。自公との大連立がよりどころとなった。そこで自民党も正面から改憲を言うようになった。

今度の衆議員選挙では、おそらく自民中心の政権が生まれるだろうが、今は以前のように自民・民主の保守2大政党が合わせて国民の7割の支持を受ける時代ではなくなっている。今回の総選挙で自民プラス民主の得票は5割を切ると思われる。つまり、自民だけでも民主だけでも構造改革・軍事大国化の政治はできなくなっている。その状況の突破を期待されて、維新の会の伸長がある。これらの勢力が合同するなら、消費税・TPP参加はもちろん、22年間の宿願だった改憲・集団自衛権の実現さえ見えてくるという状況になりつつある。しかしこれは、保守政治がそこまで追い詰められていることでもある。自公民プラス維新が国民の支持を受けなくなると、後はもう受け皿になる保守はないのであるから。

自民党の「日本国憲法改正草案」(2012.4.27)をみってみる。憲法9条の第1項(平和主義・武力を国際紛争解決に用いない)は変えないが、9条第2項を、「第1項の規定は自衛権の発動を妨げない」と変え、「自衛」を掲げてとらえた**集団的自衛権を発動**することを狙っている。これは決定的改悪である。アジア(または世界のどこでも)でアメリカが攻撃されたら、日米安保のもとで自衛隊が敵を攻撃することを意味する。

自民党の改憲案は、9条のほかにも目的がある。1条で天皇が元首と明記し、3条で君が代・国旗の尊重を謳う。そして、構造改革・大企業減税・軍事費増大で国民生活に更なる格差と貧困がもたらされるが、そういう困難を国の責任でなく家族の協力で吸収することを狙って現憲法24条(婚姻・両性の平等)を、「家族が互いに助け合わなければならない」と変えようとしている。構造改革・大企業減税・軍事大国化の道を進むなかで増大する離婚・母子家庭増大、育児の放棄・虐待・貧困などを減らす対策である福祉・医療・生活保護の充実など

わたしの主張 「9条に寄せる思い」

7周年のつどいでは、4人の賛同人の方から9条への思いを語って頂きました。
塩見さん：普段から子ども達に戦争は絶対にいけないと話をしてしています。昨今、

公然と「日本を戦争ができる国にしたい」とテレビで話されているのを見て「そんなに戦争がしたいなんておかしいね」と子ども達も言っています。勝田で自衛隊と警察が有事の際の訓練を行なったと聞き、まるで戦争前夜のようにとても怖いのです。9条は、何千年もの戦争の歴史からようやく辿り着いた高い志、理想だと思えます。それを無くそうなんて、とても腹が立ちます。子ども達を戦争に巻き込むことがないように頑張りたいです。

アダムさん：『詩と思想』8月号掲載のアダムさんの詩「日本憲法改善案」を朗読されました。

寺門さん：特別支援学校の教員の立場から、不登校問題、いじめの問題から考えることについて発言されました。

瀬戸さん：私にとっての憲法とは何だろうと考えてみると、憲法に守られているという実感を持ったことがないことに気づきました。この選挙で改憲改悪と声高に叫ぶ勢力を見るにつけ、あたかもそれが国民の大多数の意見のように取り上げられ本当にそうだろうか疑問を持ち、もう一度自民党の改憲案を読んでみました。天皇元首、君が代を国歌、日の丸を国旗とし、9条をパサリと変えて自衛隊を国防軍とする、基本的人権をかなぐり捨てるという時計の針をうんと逆戻りさせて「大日本帝国憲法」さえ顔負けです。戦争をするための憲法がそこにありました。これは何としても通してはならない。憲法は国民をしぼるものではありません。空気のようなものです。だからこそ日常ではその存在に気づかないほどありがたい空気、光のようなものなのです。現憲法には平和や自由への願いが書かれています。発布当時の先輩達の「もう戦争をしなくてもいい」という喜びがピタリと重なり、その素晴らしさを実感できました。(文責・塩川)



は「青天井に金がかかりとてもやってられない」として、家族に肩代わりさせることが目的である。

3 改憲を阻み、憲法の生きる社会をつくるために

こうみてくると、夢も希望もないと思われるかもしれないが、決してそうではない。

自衛隊を戦争(殺人)のできる軍隊にしてアジアに行くのはいけないと考える人が自民党でも、野中広務、加藤紘一、河野太郎さんなどたくさんいる。その中で、新潟県の新潟市の小池市長の施政を紹介したい。元防衛庁国民運動組織局長だが、自衛隊の海外派兵は「自衛隊のプライド」が許さないとして小泉首相のイラク派兵に反対する意見書を上げ、9条の会の賛同人になった。そして2005年以降、地域の構造改革に反対して県立加茂病院の産科の廃止をとめた。2009年の5期目の市長選では、共産党から自民党まで小池市政を応援し、無投票で選ばれた。

このような運動が流れを大きく変えている。明日、東

京都知事選があり、宇都宮さんが擁立されている。市民運動の周りに「生活者ネット」「日本未来の党」が集まり、社会党と共産党も加わった大きな共闘が形作られている。それは美濃部都政が終わってから29年間、一度もなかった市民の主導という形である。これは、官邸前集会の反原発の運動の影響だ。昨日12月14日の集会で宇都宮さんの前に小沢一郎氏が挨拶したが、彼も脱原発、反TPP、消費税反対という国民の声を取り入れざるを得ない。私たちは宇都宮さんの公約に、反貧困・福祉充実、脱原発、教育の自由に加え、「憲法の生きる東京」を掲げているので「国民の生活が第一」の参加は難しいと思っていた。ところが、宇都宮さんの応援にまわった小沢氏は、憲法改正は今必要ないと言うようになってきた。

* * * *

渡辺さんは、いま憲法を活かす運動が大きく育とうとしていて、その力は必ず政治に反映されるということが、これらの経験で示されていますと語り、9条の会つくばの運動も7周年を節目にさらに発展し、国中に、地域を拠点に、良心的保守の人たちも巻き込んだ、憲法改悪阻止の一点で大きく運動が広がるなら、私達が生きている間は、平和憲法が改悪されるということはない時代が来るだろうということに確信をもって進みたいと思います、と結ばれました。(文責・三浦)

行動予定



- 2月3日(日) 12:00～ 定例署名活動 アルス前
- 9日(土) 12:30～ 9の日署名 西武前
- 20日(水) 13:30～ 事務局会議 松代交流センター
- 3月3日(日) 12:00～ 定例署名活動 アルス前
- 9日(土) 12:30～ 9の日署名 西武前
- 17日(日) 10:00～ 「結」50号発行
定例世話人会 並木交流センター (予定)

☕ 9条カフェ



バイオリン演奏とシャンソンラムール有志による合唱でスタート。渡辺治さんにも参加頂きました。自民党改憲案の天皇の元首化について質問があり、改憲案は自民党の希望を全て盛り込んだ高めのボールのようなもの、9条と96条の改悪以外は譲歩することを前提にした本丸隠しの切りしろだとのこと。「松戸での大江健三郎さんの講演会は、参加団体が多様で若い人が大勢参加していた。今後このような取組みが大切」との意見もありました。講演会の時間延長の影響で、カフェでの交流時間が充分取れず残念でしたが、美味しい手作りお菓子と飲み物に満足し、「ふるさと」の全員合唱で閉会となりました。(武田)

9「憲法9条の会つくば」7周年記念のつどい (資料)

7周年のつどいにご参加頂きました賛同人の皆さまには重複しますが、当日報告・提案された「活動報告と今後の目標」を掲載致します。

3月11日の東日本大震災と福島第1原発事故から1年9か月が経過しました。復興予算のばらまきが問題視される中未だに被災地の復興は進まず、東電や政府の責任が問われないまま福島原発事故の収束もままならない状況は続いています。昨年をつどいから1年、復興と脱原発を国民の目線からどう実現していくかが模索されてきました。脱原発の世論が高まる一方、命を守る9条の精神はいま危機に瀕していると言わなければなりません。

明日の衆院選に向けて、自民党は公約で「他国の武力攻撃から国民を守る国の責任を最高法規に明記する方針」を示しました。具体的には「自衛権の発動を妨げないこと、国防軍を保持すること」を明記し、自衛隊の国防軍への改称や、個別的・集団的自衛権を発動する見解を表明しています。日本維新の会では、自主憲法の制定が必要だとして統治機構改革のための憲法96条改定をターゲットに、平和憲法の破棄をもくろんでいます。

これまでにない踏み込んだ9条改悪のシナリオが取りざたされる背景には、尖閣・竹島の領土問題や北朝鮮による長距離弾道ミサイル発射予告などに対する、国防や国益を守ることを喚起し、狭い愛国心を高める世論の誘導があります。この情勢を押し返していくために、全国九条の会は「全国7500の9条の会から改めて活動を起こしていくことがこの国の方向を変える最も大きな力になる」として、呼びかけ人を先頭にした憲法セミナー、事務局主催の連続講座の開催と共に、各地の「九条の会」で草の根の学習会をどんどん開催し、行動と対話を積み重ねていく活動の重要性が提起されました。

9条に危機が迫る緊急事態ともいえる今、当会でも全国九条の会の提起に呼应し、結成当時と同じ気持ちに立ち返って、つくばでの活動を賛同人の皆さんと知恵を出しあい、平和への思いを結集していきたいと考えます。

I. 活動報告

1) 賛同呼びかけ

賛同人それぞれが、地域・職場・分野などで賛同を拡げています。また様々な機会に広く賛同を呼びかけました。11月4日現在の賛同人総数は885(6周年のつどいから+44)名、市内在住の方は631(同+17)名です。つくば市で700名の目標は届きませんでした。市内在住の増加が少ないのは、市からの転出に一因がありますが、それを上回る努力が必要です。また賛同人が身近な方へ働きかけてくださるよう協力と呼びかけています。

2) 署名活動

つくば市有権者16万人の過半数獲得を目標に「憲法

9条を変えさせない」署名活動を毎月第1日曜日と9の日にアルス前およびクレオ前で行っています。また地域・職場などでも署名を集めています。

2012年11月27日現在の署名総数は13744(6周年のつどいから+1740)筆です。5月の定例世話人会で目標を13000筆から14000筆に引き上げましたが、引き上げた目標に到達しませんでした。友好団体の様々な催しに参加、寄せられた署名総数は昨期の約6割増しの813筆でした。定例署名と9の日署名を併せた総数は612筆、個人の努力による署名総数は315筆でした。米国籍の賛同人が9の日署名行動に継続的に参加されています。

12月に行った憲法9条の賛否を問うシール投票には、多くの家族連れで賑わいました。投票や署名の際にお配りした9条ティッシュは好評でした。

3) 広報活動

・広報チラシの配布とチラシの更新：広く市民に9条の会の運動をお知らせするために、定例・9の日署名や様々な機会に広報チラシを配布しました。一昨年末に1万枚印刷した広報チラシはほぼ配布し終わり、原発事故などの新たな事態に対応するために、広報チラシの内容を更新しました。

・成人式に参加する若者たちに向けて独自チラシを配布し、署名を呼びかけました。

・全国の9999行動に呼应して、つくば駅改札前で、広報チラシを200枚配布しました。

・メーデーや10.21 県南大集会などで、署名行動・チラシ配布・決意表明などを行い、広報しました。

4) 地域における活動

他団体との共同行動として「5.1 メーデー」「5.3 憲法フェスティバル」「つくば市母親大会」「10・21 県南大集会」「12.8 不戦のつどい」などに参加しました。筑波研究学園都市研究所・大学関係9条の会や荃崎9条の会と交流を深めています。

5) 学習、企画、催し物など

・「6周年のつどい」2011年10/9(日) ジャーナリスト伊藤千尋さんの記念講演「憲法を復興に生かそう」「原発も基地もない世界を」を行いました。伊藤さんからは世界の各地で憲法9条の精神が尊敬されている事例が語られ、今後は「護憲より活憲」と憲法を活用していく道が示されました。記念講演後は6つのテーブルに分かれて「9条カフェ」が開かれ、全ての参加者がお茶を飲みながら交流できるよう運営を工夫しました。講演に先立って午前中はつくばセンター広場で模擬店やイベントステージを行い、市民との交流をはかりました。

・「大阪・橋下イズム」についての学習会 2012 年 5/27(日) 定例世話人会後、主要各紙の報道記事や、月刊「女性と運動」の特集などを資料に、橋下市長と大阪維新の会の特異な主張の背景を読み解く学習をしました。

・若い世代と戦争体験を聞く会(3 回開催)2011 年 11/26(日) 戦時中日赤の従軍看護婦として戦地にいかれた守屋ミサさんのお話。2012 年 4/14(日) 長崎で一家全員被爆された鶴文乃さんのお話。2012 年 9/23(日) 女学生で東京大空襲を経験、土浦へ疎開された栗栖恵子さんのお話。今年度はこの 3 回の貴重な戦争体験談をお聞きすることができました。聴き手は高校生から 20 代、30 代~70 代まで幅広く、毎回参加の若い女性もいました。

・うたごえ広場 2012 年 7/1(日) 今年はつくばセンター広場で開きました。会代表の一人、堀部一寿さんのソロ「我が窮状」や「歌大好き初心者コース」、アカペラグループ「アニメロン」のうたごえを楽しみ、参加者も梅雨空を吹き飛ばす元気な声を響かせました。署名活動、お菓子や飲み物の販売で通行中の市民とも交流しました。

・ピース・ツアー「信州平和美術館めぐり」2012 年 7/30~31 昨年に続きバスを借り切ったの 1 泊旅行。長野県にある 4 つの美術館を巡りました。最初の日の上田の「無言館」、菅平の「らいてう記念館」。2 日目は安曇野の「いわさきちひろ美術館」、キュート君の作者成瀬政博さんの個人美術館「バナナムーン」。駆け足の旅でしたが、それぞれの館での作品や作者との出会いが平和へ思いをより深めるものとなりました。写真家の齋藤さだむさんも同行され、すばらしい記念写真の数々を撮影下さいました。

6)「結」の発行

コミュニティー紙「結」を隔月発行しました。会で催した様々な活動、企画を写真と共に紹介し、親しみやすく読みやすい紙面の改善に取り組みました。会独自の活動だけでなく、地域の学習会、イベントの紹介など平和と憲法にまつわる取り組みを伝えながら、賛同人の声を紹介する記事を掲載しました。また時々の情勢、憲法をめぐる動きについて、「9 条の視点から」で会の主張を掲載しました。初めての試みとして「改憲の危機を賛同人と考える座談会」を企画し、賛同人の方々との意見交

流を掲載することで、現在の危機的状況を訴えました。

7)平和の鐘 一振り運動

広島・長崎の原爆の日に、「ばってんネットワーク」が提唱する「平和の鐘 一振り運動」に賛同し 8 月 6 日、9 日の両日、市内柴崎の北斗寺で原爆投下の時間に合わせて鐘撞きをしました。また自由が丘のめぐみ教会では両日平和集会在持たれ、2 人の賛同人の方が戦争体験をお話し下さいました。ここでも投下時間に教会の鐘を鳴らし平和を願って黙祷しました。9 日には花室幼稚園の園庭にある可愛い鐘を園児さん 5 人と一緒に鳴らし、戦争のお話をしました。

8) 活動体制

5 名の代表と 9 名の事務局員、25 人の世話人を中心に、事務局会と定例世話人会とを隔月に開催し、提案された課題を話し合い、活動を具体化してきました。

II. 今後の活動の目標

新しい政権がどのようなものになろうとも、私たちは何としても「憲法 9 条を守る」という目標を達成するため、すべてのつくば市民に賛同を呼びかけ、市民の過半数が「憲法 9 条を守る勢力」になって下さることを目標に活動を続けます。

いま、原発をなくそうとの運動が広がりを見せています。これに対し、原発はエネルギーのためではなく、原発によって作り出されるプルトニウムの軍事利用のために止めたくないという勢力があり、この勢力が憲法 9 条を変えようと主張している勢力でもあります。

原発をなくそうとの運動は、憲法 9 条を守る戦いと結びついたとき、社会を変える力になると信じています。脱原発を基軸に、たくさんの市民団体が共に手を携え、草の根から運動を積み重ねていきましょう。

*「8 周年記念のつどい」までに次の目標を提案します。

- ・つくば市内の賛同人を 700 名にすること
- ・「憲法 9 条を変えさせない」署名を 1 万 5000 筆まで集めること
- ・小学校単位の地域、職場、市民活動の分野などに、たくさんの小規模な「9 条の会」を作ること
- ・学生・若者と共にできる 9 条運動を考え、そのなかで 9 条運動を担う勢力を育てること
- ・賛同人間の交流を深め、楽しみながら 9 条の輪を広げること

アンケートの感想とご意見

◎講演内容は幅広く総選挙についても言及されており、予測の言葉であり、どう理解すれば良いか少し迷った感があります。しかし政治がどうあれ、市民の運動がみんなの要求をもとに、政治をも動かすということには、勇気をもらいました。これからの活動ですが、小さい規模で市内各地で 9 条カフェを開くというのでしょうか。

◎講演会では世の中(特に政治)の裏の裏がわかってとてもためになりました。9 条カフェでは 9 条パン、ケーキ、とてもおいしかったです。秋田リンゴジュースもとても体にいい感じ(セシウムを出してくれそう)です。

◎賛同人の方の生の声、大変よかったです。勇気もらえたような。

◎やはり年代の偏りが気になった。渡辺氏の講演では 2000 年代に世論としては改憲反対が倍増したという点が印象に残った。危うい状況を盛り返したわけだから、反動化に対しては何度でも盛り返すしかないし、できるという確信をもった。

当会では第1日曜日にアルス前で定例署名行動、9日に西武前で9の日署名を行なっています。定例署名、9の日署名、ご都合つきましたら皆さまのご参加お待ちしております。

✿ 定例署名でシール投票を呼びかけ

12月の第1日曜日と9の日の定例署名の日に、「7周年のつどい」のイベントの初めての試みとしてシール投票を行いました。「あなたはどちらを選びますか？ 憲法9条をまもる、変える、わからない」という問いかけに、「まもる」にはゴールド（合計69人）、「変える」にはレッド（合計7人）、「わからない」にはホワイト（合計6人）のシールを貼ってもらいました。

9条ティッシュや子どもには風船を渡しながらか、署名をお願いしました。たくさんの方が足を止め、シール投票の前で和やかに意見交流する人の輪が生まれました。両日の定例署名の合計は54筆でした。（事務局）

✿ 12.8不戦のつどい報告

森住卓氏講演会「戦争にまきこまれないために！」

2012年12.8不戦のつどいは、例年のように「9条の会つくば」「学研労協」などの市民団体（11団体）と、「茨城県平和委員会」「茨城県うたごえ協議会」などの協賛団体（4団体）による「不戦のつどい実行委員会」によって開催されました。特に今年は、福島原発事故による影響が広がっている状況から、フォトジャーナリスト森住卓氏を招き、講演会「福島と世界の核汚染」

「憲法9条の会つくば」の活動から



◆賛同人 2013年1月13日現在
総数 885名（市内631名）
◆9条署名 12月13日現在 13,798筆

を、12月7日「つくばサイエンスインフォメーションセンターで開催し（18:00～20:30）、70名を超える参加がありました。

講師の森住さんは、1988年共著「ドキュメント三宅島」で日本ジャーナリスト会議奨励賞を受賞し、1994年からは世界の核実験の場の被爆者を取材された方で、セミパラチンスクやチェルノブイリなど旧ソ連の核実験や原発事故による人体汚染や福島原発事故における核汚染問題などについて、プロジェクター映像による現地の核に蝕まれた汚染の実態講演には迫力がありました。

一方、憲法（9条）を改悪し、自衛隊を「国防軍」に変え、集団自衛権の行使さえも可能にしようとする動きが、12月16日の総選挙結果をうけて、さらに強まって来ることが考えられます。デフレ・不況対策、そして原発問題解決とTPP問題などの諸問題と連動させた国民的な運動が重要になってきました。12.8不戦のつどい（風化する戦争体験を掘り起こし、語り継ぐ）の反戦平和の精神を受け継ぎ、民主主義を発展させていくことがいよいよ大切になってきました。（原田）

「憲法9条の会つくば」会計報告 2011年12月～2012年12月

収入

| | | |
|------------|----|---------|
| 前期より繰り越し | 口座 | 439,400 |
| | 現金 | 21,523 |
| 小計 | | 460,923 |
| 今期収入 | | |
| 賛同人カンパ（口座） | | 253,400 |
| 賛同人カンパ（現金） | | 106,309 |
| 7周年のつどい | | 151,796 |
| その他 | | 70,723 |
| 小計 | | 582,228 |

支出

| | |
|----------------|---------|
| 「結」関係 | 247,422 |
| 賛同人拡大・署名 | 9,780 |
| 7周年のつどい | 155,344 |
| その他（うたごえ・カフェ等） | 149,580 |

収入合計 1,043,151
支出合計 562,126

差引残高 481,021
口座 342,200
現金 138,825

インフォメーション

◇つくば市民の会 学習会・総会

日時：1月26日（土）13:30～16:00
場所：春日交流センター

「つくば市の財政とTX沿線開発問題について考える」話題提供：亀山大二郎さん（財政問題について）、酒井泉さん（TX沿線開発問題について）問合せ：新しいつくばを創る市民の会 TEL029-837-0771（河村）

◇憲法9条土浦の会・うたごえ広場

日時：2月16日（土）13:30～15:30
場所：ワークヒル土浦音楽室/会費500円飲物お菓子付
連絡先：TEL029-831-6288（福田）

◇子どもとメディアを考える学習&交流会 2013

日時：3月3日（日）10:45～16:00
場所：イーアスつくば ホール（研究学園駅 徒歩4分）
講演：「ネット社会、私たちができること」遠藤美季さん
「メディア漬けで壊れる子どもたち」清川輝基さん

参加費：一般1000円、学生800円

主催：子どもとメディア関東 TEL080-7020-2617（矢野）

◇「テレビジョンを語る会」連続講座とパネル展

・3月17日（日）14:00～16:00/土浦駅前県南生涯学習センター講座室/講師：林幸子さん「テレビジョンの子どもたちから」

・4月13日（土）14:00～16:00/土浦一高旧本館復元教室/講師：林幸子さん「テレビジョンの子どもたちのその後」
連絡先：TEL029-823-3484（関谷）

◇Big対談：村上達也村長&小森陽一さん

日時：3月30日（土）13:40～16:30（開場13:00）
場所：東海文化センター
演題：東海村から日本の未来を考える～命を守るために
入場料：500円

主催：3.30 Big対談実行委員会（代表：田村武夫）
連絡先：029-231-4555（はばたき）